

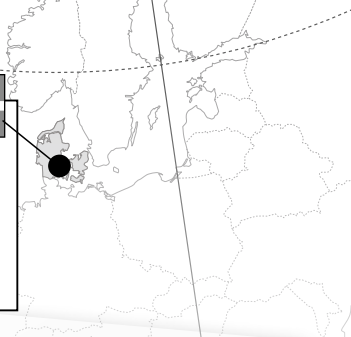
コペンハーゲン通信 Part II



名所の一つ「ラウンドタワー」から市内を望むと、速くにオーレスン橋がうっすらと見えます。

デンマーク王国 DATA

人口551万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「国際競争力5位(WEF)」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。



2007年1月より、当会事務局員が2年の任期で在デンマーク日本大使館に出向していますが、今年1月に齋藤弘憲より樋口麻紀子にバトンタッチしました。そこで、今月号より新たに「コペンハーゲン通信Part II」として、デンマークからの現地報告を引き続き皆様にお届けします。

見えない国境・デンマークとスウェーデン



樋口 麻紀子

在デンマーク日本大使館一等書記官(経済同友会事務局より出向中)

着任翌日、早速国外出張に行くことになりました。コペンハーゲンの町もまだわからないのに役に立つだろうか、そもそも館員の方々も昨日お会いしたばかりで失礼があったらどうしよう…。戦々恐々の体で車に乗り込んで1時間強、途中海峡を貫く大きな橋を渡り、沖合に並ぶ風力発電のタービンに見とれているうちに、もう目的地に着いたとのこと。行き先は隣国・スウェーデン南部の町マルメでした。同じEU圏内でパスポート・コントロールもなく、国境すら全く気付きませんでした。隣国というより「隣町」のような感覚です。

全長約15kmのオーレスン橋が開通した2000年以降、コペンハーゲンとマルメの結び付きは強くなる一方だそうです。物価の高いコペンハーゲンからマルメに生活基盤を移し、日々国境を越えて通勤する人の数も増えているとのこと。マルメの人々にとっては、首都ストックホルムよりもコペンハーゲンの方が交通の便がよいとあって、先の衆議院議員選挙の在外投票の際も、橋を渡ってコペンハーゲンの日本大使館まで投票に来る在留邦人の方がいらっしゃいました。

このように日常的なつながりを深めている二つの町ですが、両国の間には越えがたい気質の差が存在するそうです。

一般に、デンマーク人には仕事の割り振りの際はゴールだけ示してもらいたい、方法論やプロセスについて細かに指示をされるのは嫌という人が多い。それに対してスウェーデン人はそのようなやり方に心細さを覚えるし、上司も部下の仕事の進捗を逐一把握している状態を好むと言います。デンマークで働くスウェーデン人、スウェーデンで働くデンマーク人が増えるとともに、勤労観や職場環境の違いが原因でストレスを抱える人も増えているそうです。多少、牽強^{けんきょう}付会^{ふかい}の

気味があるかもしれませんが、このような違いは国の大きさに起因する面もあるのではないかと思います。

スウェーデンの面積は約45万km²、首都ストックホルムから例えばマルメまでは約600km、広大な国土において上意下達を徹底するのは容易ではなかったことでしょう。片やデンマークの国土はその十分の一以下、九州に匹敵する規模です。税制、高齢者医療、ロボット技術など特定分野に關与する人々のサークルも小さく密で、セクターや組織の別を超えて「大声を出せば関係者全員に届く」距離感だそうです。

物理的・心理的な距離感の小ささに加えて、少ない人数で効率的に仕事を切り回していくため、トップから現場のスタッフまで、一人ひとりが自立的な権限を持って仕事に向き合う気風が形成された、というのがある政治家の言でした。曰く、お客様からクレームを受けた際に、「ルイ・ヴィトンはいちいちパリの本社にお伺いを立てないと返事ができない。ロイヤル コペ



旧証券取引所。現在は商工会議所等経済団体がオフィス構えています。

ンハーゲンなら20代の店員でも自分の判断と責任ですぐに回答ができる」とのこと。責任が明確で思い切った権限委譲が行われているため、一人で一日に10件、20件と意思決定を進めることも可能なのだそうです。

フラットな組織と意思決定は、小さな国にとっては選択の問題ではなく、必然的な帰結ということでしょうか。その意味では、日本はまだ改革の余地を残すゆとりある大国なのかもしれません。